

2015年度 金沢大学 経済学類

オープン・キャンパスで
参加者の皆さんから頂いた質問に
教員が答えます



ここに掲載されている内容は
全て2015年8月現在のものです

1. 経済学類の全般的な事柄について

Q. 他大学と違うところは何ですか／他大学より優れていると思う点を教えてください／金沢大学経済学類の一番の特徴は何ですか／金大でしか学べないことはありますか。

A. 2014年度のオープン・キャンパスで参加者から上がった質問に答えた、こちら（以下、2014年版FAQ）をご覧ください。

<http://econ.w3.kanazawa-u.ac.jp/newspdf/2014OpenProf.pdf>

加えて、副専攻制度も経済学類の特徴であり、魅力であると言えます。2014年版FAQの4ページを参照してください。

Q. 教育方針はどのようなものですか。

A. 2014年版FAQの4ページ、【学校教育の制度】を参照してください。

Q. 特に力を入れている教育は何ですか／経済学類ならではの行事や取り組みはありますか。

A. 金沢大学経済学類では共通教育（幅広い教養教育）も経済学・経営学の専門科目・ゼミも、また経済学・経営学に隣接した科目も等しく重要であると位置づけていますので、特定の分野を重視し、その他の分野を軽視することはありません。ただし、後述するようにゼミは経済学類がとりわけ力を入れている教育活動であると言えます。

経済学類ならではの行事・取り組みとして、ここでは「ゼミナール大会」を挙げておきます。

「ゼミナール大会」とは毎年12月初旬に開催される経済学類ゼミの研究大会であり、毎年、15ゼミ程度がこれに参加しています。参加ゼミではゼミ3年生が半年以上をかけて共同研究を行います。その際、テーマ選択から資料収集、調査、プレゼンテーション、さらには共同論文執筆まで、全てゼミ生が主体的に取り組みますので、この共同研究を通じて学生の問題意識は研ぎ澄まされ、一つの研究テーマについて体系的・論理的に分析、考察する力が培われます。この過程を通じて学生は自信をつけると同時に、ゼミ生同士の友情も深まることとなります。ゼミナール大会はこうした共同研究を発表する場であり、2～3のゼミから成る6つ程度の分科会に分かれて各ゼミが研究発表を行い、聴衆からの多くの質問に答えます。各ゼミの研究発表はゼミ選択を控えた2年生にとって大きな選択材料となりますので、毎年多数の2年生が大会の傍聴に訪れます。このように、ゼミ生に主体的な研究活動を促し、2年生に対してもゼミ選択の参考となる機会を提供しているのは、経済学類が少人数教育を徹底したゼミを4年間の学びの集大成としてとりわけ重視しているからに他なりません。

Q. 主な研究内容を教えてください。

A. オープンキャンパスで配布した「教員紹介パンフレット」を、ぜひご参照ください。また、金沢大学経済学類Webサイトのこちらをご覧ください。<http://econ.w3.kanazawa-u.ac.jp/research/list.html>

Q. どのような生徒と学びたいと思いますか。

A. 経済学類の人材育成方針は金沢大学 Web サイトに掲載されています。

<http://econ.w3.kanazawa-u.ac.jp/outline/index.html#policy>

まずはこの方針を理解していただいた上で、少し補足説明をしましょう。

現実の世界は、自分で主体的に課題を発見して積極的に取り組む能力や、高いコミュニケーション能力をもった人材ばかりではありません。むしろ、そのような人間ばかりであると社会は息苦しくなり、組織も回っていかないでしょう。現実の社会にはリーダー的存在だけでなく、言われたことをきちんと誠実にこなすタイプ、時間をかけて地道にコツコツ積み上げて成果を出すタイプ、大きな仕事に取り組んだり斬新なアイデアを出したりはしないが、人の嫌がることを率先してやるタイプ、細かな気遣いのできるタイプなど、様々な人間がいて、そうであるからこそ社会はうまく回っていく、という側面があります。ですので、経済学類では学生に対して「人材育成方針」にあるような能力をもった人材となるよう教育すると同時に、いま述べたような様々な個性も大切に伸ばしていくことを考えています。これは少人数教育を徹底しているからこそ可能となる、きめ細やかな指導であると言えます。

Q. 大学院にはどういう人が行くのでしょうか。また、行くメリットを教えてください。

A. 一般的に、大学院に進学するのは将来、研究者を志す、あるいは国際機関での就職を目指す学生が多いと言えます。研究者、国際機関、いずれについても多くの場合、大学院の博士前期課程（いわゆる修士課程）と博士後期課程（いわゆる博士課程）の両方を修了して学位（修士号、博士号）を取得することが求められます。

次に、大学院進学の特長についてです。第一義的には深い専門知識に加えて自分自身で問いを立て、資料を収集し、学術論文にまとめるという高度な能力が身につくことが大学院進学の特長であると言えます。上述した「研究者になる、あるいは国際機関に就職」というのは、そうした高度な能力が身につくからこそ可能性が高まるという意味において、大学院進学の特長であると言えます。

なお、大学院修了者の就職について、理系の場合には大学院修了者は研究職、あるいは技術職として民間企業に歓迎されることが多いのに対し、文系の場合、新卒者は専門家（specialist）ではなく、幅広い仕事に対応できる力をもった generalist が求められることが多い傾向にありますので、文系で一般的な就職を希望する場合には、大学院進学がかえって不利になることもあり得ます。したがって、就職浪人の手段として、あるいはより良い就職先を期待して漫然と大学院に進学することはお勧めできません。

2. 履修について／講義内容について

Q. 講義を受けるにあたって、基本的にどんな学力が必要になってくるのですか／高校の勉強で特に活かすことのできる科目は何ですか。

A. 基本的には普通科高校で学ぶ内容がしっかり身につけていけば十分です。高校の勉強で特に活かす

こののできる科目は、経済学類の専門科目を受講する上では数学と社会科系科目であると言えますが、講義を理解したり、文献（日本語あるいは外国語）を読んで理解したり、ゼミで卒論を執筆する上では上述の科目に加えて国語と英語の力もしっかり身につけている必要があります。

Q. 各先生方に共通の教え方はあるのでしょうか。

A. 大学教員はそれぞれの専門分野をもった研究者であるという点で、教職課程を履修し、教員採用試験に合格した小中高の教諭とは異なります。したがって、教え方などについてマニュアルや要綱のようなものがあるわけではなく、教員によって様々です。また、同じ教員であっても受講者の人数や講義の性質（共通教育科目か専門科目か、あるいはゼミか、など）によって教え方は自ずと変わってきます。ただし、大学あるいは学類で定めた教育方針に則って講義の目標や到達目標などを明確に定め、それらに即して体系的に講義を行っている点では共通していると言えるでしょう。

Q. 卒業のために何単位とる必要があるのですか。

A. 入学年度によって異なります。参考までに、2015年度入学者の場合は、124単位以上とる必要があります。

Q. 1,000以上ある、共通教育のいろんな科目を選択できるのは経済学類だけですか。

A. いいえ。全ての学類生について同じことが言えます。ただし、受講者の人数制限の関係上、特定の学類生に対して優先的に履修許可を出す科目もあります。

Q. 他学類に入学した上で経済の授業を取ることは可能ですか。

A. 可能です。逆に、経済学類に入学して他学類の授業を取ることも可能です。ただし、自分の所属する学類以外の開講科目を履修して、その単位を卒業単位の一部に組み込むには上限（24単位）があります。上限を超えて（つまり、卒業単位にカウントされなくても構わないから）他学類の開講科目をもっとりたい、という場合には、勿論、学生の自由です。

Q. 角間キャンパスに通いながら、宝町・鶴間キャンパスの講義を受けることは可能ですか。

A. 受講することは可能です。ただし、他学域の履修になるため、別途手続きが必要です。なお、科目によっては他学域・他学類の学生が履修できないものもあります。各科目の詳細はWeb版シラバスで公開していますので、参考にしてください。<http://sab.adm.kanazawa-u.ac.jp/>

Q. 「人生の夏休み」と呼ばれる大学生活ですが、実際にはどれくらい筆記試験をするのですか。

A. まず、大学生活が「人生の夏休み」というのは遠い昔のことです。現在、大学には従来以上の社会的責任が求められています。同時に、かつての企業は時間をかけて人材を育成していましたが、現在では即戦力を求める企業が増えています。こうしたことから、現在、金沢大学では密度の高い教育を行うと同時に厳格な成績評価を行っています。言い換えますと、かつての大学はよく言えば「おおらか」、悪く言えば「いい加減」なところがあり、学生は一所懸命に予習復習をしなくても単位を取れる場合が多かったの

に対し、現在の大学生は真面目に講義に出席してしっかり勉強しなければ単位を取れない、ということです（現在でも一部、よく言えば「おおらか」な大学もあるようですが、少なくとも金沢大学経済学類に関してはそうです）。

さて、筆記試験についてですが、期末試験をどれほど受ける必要があるかについては、その学期に自分が何科目を履修したかによります。一般的に、低学年ほど多くの科目を履修することが多いので、低学年の間は特に、期末試験の勉強は大変であると思います。また、講義によっては学期の途中に小テストを課す、あるいは毎週、理解度を確保するための小テストを実施したりする場合があります。

なお、本分である学業に専念する必要がある経済学類生ですが、それでも学生諸君は時間を工夫して部活・サークルやアルバイトなど、学業以外の時間も充実して過ごし、学生生活を謳歌している様子ですから、勉強以外は何もできないほど厳しい、というわけでは決してないことも付記しておきます。

Q. 英語だけを学ぶのと、英語に加えて第二外国語を学ぶのとでは、違いは大きいものですか。

A. ここでは二点、違いを指摘しておきます。第一に、実利的な側面です。すなわち、第二外国語を修得していれば、留学あるいは就職について選択肢が広がる、ということです。たとえ第二外国語を堪能に話せるまでには至らなくても、ある程度、読み書き・会話ができるようになれば、もっとその力を伸ばしたい、と考える留学へと目が向く可能性が高くなるでしょうし、就職においても採用する側が「英語以外の言語もできる人材をとっておきたい」と考えるであろうことは大いに考えられます。

第二に、自身の人間的成長、すなわち、世界を見る目の広がり、という点です。それぞれの言語には文化的背景があります。英語とは異なる言語を学ぶことによって、世界の多様な文化を理解し、世界を複眼的な目で見る目が培われます。また、ヨーロッパ系言語に関しては、ラテン語を起源とする点で共通していますから、英語と似ている点が多かれ少なかれありますが、同時に、それぞれの言語の英語と異なる点を発見していくことも、新たな興味や、その言語の背景を知る上でのヒントにつながっていきます。一方、朝鮮語については日本語と文法がよく似ているので修得しやすいのに加え、日本から伝わった単語も多数ありますので、「ああ、これは日本語のこの単語に対応しているのか」といった発見が数多くあります。そうしたことから朝鮮半島への興味、親しみが湧き、朝鮮半島についてもっと知りたい、という新たな知的好奇心が生まれてくることもあるでしょう。このように、第二外国語を学ぶことによって様々な広がりがあります。

Q. 人気のコースはありますか。

A. 例年、経営・情報コースを選択する学生が多いようです。なお、オープン・キャンパスでもお話ししたように、学類共通科目を6科目以上、および選択したコースのコア科目を8科目以上とれば、他のコースの科目も自由に履修することができますので、コース選択にあまり神経質になる必要はありません。

Q. 希望するゼミには全員が入れますか。選抜があるのですか。

A. 少人数教育を徹底するために経済学類ではゼミの定員を一学年につき8名、と定めていますので、希望者が9名を超えた場合には定員を超過した分の人数が第2あるいは第3希望のゼミに入ることになります。その際の選抜方法は成績順、面談など、ゼミによって異なります。

Q. 経済・経営について、具体的にどんなことを学ぶのか詳しく教えてください。

A. 経済学類の Web サイトをご覧ください。<http://econ.w3.kanazawa-u.ac.jp/>
また、オープン・キャンパスでお配りした学類パンフレットもご覧ください。

Q. マーケティングは人気があるそうですが、具体的にどのようなことを学ぶのですか。

A. マーケティングは、企業経営の実務から生まれた学問分野です。マーケティングの講義では、企業（特にメーカー）の商品開発から製造、販売、広告宣伝などのプロモーション、市場リサーチ、ブランド構築といった、一連の企業活動に関する理論的考え方を中心に学び、社会人となってから問題解決に応用できる知識を身につけることを目標にしています。また、講義の中では、企業人の方を招き、企業活動の最前線の状況についてお話を伺うこともあります。

なお、次の金沢大学シラバスから検索することで同科目の詳細をご覧ください。

https://sab.adm.kanazawau.ac.jp/search/jyoken/jyoken.asp?kensaku_type1=gakuiki&kensaku_type2=kamoku&nendo=2015

Q. 経済だけでなく、政治なども学べるのですか。

A. はい。政治に比重を置いた科目もありますし、経済学の科目であるけれども政治について同時に学べる科目もあります。政治と経済は密接に結びついていますので、政策系科目、また比較社会経済コースの一部の科目では、経済と同時に政治についても学ぶことが可能です。

Q. 経済史とは具体的にどのようなことを学ぶ科目ですか。

A. 経済史とは、経済（または経済思想や経済学）の歩みを通じて、経済発展の論理を学ぶ学問です。金沢大学経済学類では3種類の経済史の講義があり、それぞれの科目は概ね以下のようなテーマ・目標を掲げています。

1. 西洋経済史：

ヨーロッパ（特にイギリス、フランス、ドイツ）の経済構造の形成過程を理解する。

現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。

経済学・経営学を学ぶために必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。

2. アジア経済史：

アジア（特に中国大陸）の近代化過程を理解する。

20世紀前半の中国資本主義的発展の状況と、当時における日本と中国の関わりを理解する。

3. 日本経済史：

日本の資本主義化の過程を理解する。

日本資本主義の全期間（開国からバブル崩壊）を対象に、日本経済の構造変化における因果関係を

理解する。

なお、次の金沢大学シラバスから検索するとこれらの科目の詳細をご覧いただけます。

https://sab.adm.kanazawau.ac.jp/search/jyoken/jyoken.asp?kensaku_type1=gakuiki&kensaku_type2=kamoku&nendo=2015

Q. 将来、実家の会社を手伝おうと思っているのですが、経済学類で何を主に学ぶべきでしょうか。

A. 経営学について、また経済法について学ぶことは必須でしょう。また、企業を経営するためには世の中の経済活動全般、景気、政府の経済政策など、幅広い事柄を知っておく必要がありますから、経営学と同時に経済理論・政策の様々な科目もまた幅広く、よく学ぶ必要があります。

さらに、あなたの実家の会社が地域に根差した会社であれば経済理論・政策コースで地域経済論など、地域経済関係について、あるいは外国に展開する（しようとしている）会社であれば比較社会経済コースで国際政治経済学や国際経済法、国際金融、などについても学ぶことが望ましいと言えます。

なお、事業を経営する上では人脈もまた極めて重要ですから、共通教育科目、また部活・サークルを通じて様々な学類、学年の友人や先輩、後輩と幅広い人間関係を培うことも忘れないでください。

Q. ゼミによって、社会に出てからどのような利点が生れますか。

A. 重要なことは「どのゼミで学んだか」ではなく、「ゼミで何を学んだか」です。たとえば、金融あるいは経営の知識は就職後、役に立つこともあるでしょうが、大学で身につけた知識だけで即戦力になれるほど実社会は甘くありません。大学は就職予備校ではなく、あくまでも学問的知識を身につける場ですから、これは当然のことです。

さて、「ゼミで何を学んだか」についてです。たとえば、オープン・キャンパスで紹介している経済学類卒業生のうち、弁護士として活躍する岡野陽介さん、ラオスの旅行会社に就職後、モルジブのリゾート・ホテルに転職し、さらに日本の大手旅行会社、H I Sにヘッド・ハンティングされて同社のラオス支社で活躍する新開あゆみさん、F M Iしかわの人気パーソナリティとして活躍する松岡理恵さん、はいずれも国際政治経済学のゼミ出身です。彼らの現在の仕事に、ゼミで学んだ知識は全くと言って良いほど活かされてはいないでしょう。しかし、彼らはゼミにおいて人一倍の努力をした結果、自ら課題を見つける力、真摯に課題に取り組む力、論理的思考力、周囲と協調する力、などを人の何倍も身につけて、それらこそがその後の彼らの人生で直接、活かされているのです。ゼミを、あるいはゼミで学ぶ専門知識を、就職のための道具と考えないでください。繰り返します。「どのゼミで学ぶか」ではなく、「ゼミで何を学ぶか」こそが重要なのです。それは学生個人のやる気次第です。

なお、弁護士として活躍している岡野陽介さんと、在学時の指導教員との対談が経済学類 Web サイトにあります。在学中から法曹を目指していた岡野さんが、司法試験に役に立たないとわかっていて国際政治経済学のゼミを選択した理由や、ゼミで得たことなどを語っていますので、是非読んでみてください。

<http://econ.w3.kanazawa-u.ac.jp/campus/graduate.html#message2>

3. 資格について

Q. 教員免許を経済学類で取得することはどのくらい難しいのですか。

A. 教員免許を取得するための教職課程科目は、経済学類の卒業に必要な単位とは別途、履修する必要があります。つまり、教職課程を履修しない学生と比較すると相当多くの科目を履修する必要があるという意味において、経済学類生が教員免許を取得することは簡単ではありません。例年、185人程度入学している経済学類生のうち、教職課程の履修登録をする学生は10名前後います。そのうち実際に教員免許を取得する学生は数名です。ただし、多くの科目を履修して勉強する労を厭わなければ、経済学類生が教員免許を取得することは決して困難ではありません。

Q. 1年次から教職科目を取ることはできますか。

A. 免許状の取得を希望する場合は、1年次の教育職員免許取得ガイダンスに出席し、1年次後期から計画的に教職科目を履修することになります。

Q. 将来は高校の社会科の教員になりたいと考えているのですが、地歴公民の免許を取得するにはどのような活動をすればよいですか／経済学類生として高校の地理歴史や国語の教員免許を取ろうとする場合、国際学類などの単位を取っても取得できますか。

A. 経済学類で取得できる免許状は、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校 教諭一種免許状（公民）です。他学類で取得できる免許状（地理歴史、国語など）の取得を希望する場合は、他学類の科目を修得して免許状を取得することができます。ただし、免許状の申請は本人が手続きをする必要があります。

また、免許状取得には、教育職員免許法および同施行規則に定める所要単位を修得する必要があります。これには卒業に必要な単位に加えて別途、相当数の単位の修得が必要ですので、1年次の教育職員免許状ガイダンスに出席して卒業要件をよく考慮したうえで計画してください。

Q. 会計士になりたいのですが、専門的な勉強はできますか。また、卒業後すぐに会計士になることはできますか／公認会計士に興味があります。試験勉強に役立つ講義はありますか。

A. 公認会計士になるためには、会計学はもとより経営学、経済学に関する幅広い勉強が必要です。金沢大学経済学類で開講されている授業科目の多くは、公認会計士（になるため）に必要な能力に関わる基礎的な知識を得るために有用です。また、法学類で開講される企業法関連の法律科目を学ぶことも公認会計士を目指すうえでは欠かせません。学域制をとっている金沢大学では、このように経済学類を中心として、法学類等の他学類の科目を履修することが可能です。

Q. どのような資格を取得可能ですか。

A. 金沢大学で取得可能な諸資格については、次のサイトをご覧ください。

<http://wwwhep.s.kanazawa-u.ac.jp/mathphys/documents/requirement0817.pdf>

4. 留学について

Q. どんな国に行けますか。期間は自分で決められますか。

A. 本学の大学間協定校は35カ国・1地域の145機関（2015年8月現在）です。その中で協定が継続して学生交換の覚書を締結している国の大学に行けます。詳しくは、協定校を紹介しているウェブサイトをご覧ください。

金沢大学の協定校一覧

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_kyoryoku/exchange/daigakukan/daigakukan.html

協定校以外に、約1ヶ月の語学研修プログラムも用意されていますので、その中から希望の国・大学を選ぶことができます。ただし、募集人数は限定されています。

留学期間は留学プログラムによって異なりますので、各自の目的・予算などを考慮して選んでください。派遣留学の場合は3ヶ月以上1年未満で、留学先の学期に合わせて滞在します。語学研修・サマープログラムの場合は3~4週間です。

Q. どの国に留学する人が多いですか。

A. 経済学類生の場合、語学研修先はイギリス・アメリカ・カナダを希望することが多いです。一方、派遣留学については英語圏だけでなく、ドイツ・フランス・フィンランド・台湾にもよく留学しています。

Q. 留学するのに一番いい国はどこですか。

A. 留学の動機・目的によって異なります。また、語学力・適応力・経済力も重要ですので、それらを考慮して留学先を選ぶと良いでしょう。ぜひ入学後に、海外交流室に来てあなたの留学目的や要望を話してください。海外交流室のスタッフが相談・支援をします。

Q. どのくらい的人数が留学しに行きますか。

A. 経済学類の派遣留学生の数は年によって異なります。最も多い年は6名でしたが、1名のときもありました。ただし、派遣留学以外に、本学の短期語学研修プログラムや協定校のサマースクールに参加する学生もいます。ちなみに2012~2014年度は15カ国・1地域にそれぞれ11人、23人、24人の計58人が派遣留学・語学研究・サマースクールのために渡航しました。

Q. 1年生のときから留学できますか。

A. 2015年度現在の制度では、派遣留学の申し込みは10月から行われ、それから選考や出願手続きが始まりますので、最も早くても1年の春休み以降の留学となります。ただし、語学研修・サマースクールであれば1年の夏休みから留学できます。

なお、2016年から本学は学生がいっそう留学しやすくなるために4学期制（クォーター制）に移行しますので、1年生でも必修科目のない学期であれば留学できるようになります。

6. 派遣留学にお金はどれくらいかかりますか。

A. 留学先に「授業料不徴収」の条件で留学する場合、宿舍費、食費等の生活費、交通・通信費、書籍代などが留学費用として必要になります。それらの留学費用は留学先の国・地域の物価や留学期間、為替レートにより異なりますし、宿舍の種類（寮、アパート、ホームステイ等）や個人の生活スタイルによっても異なりますので、一概には言えません。留学先・期間を絞れば、費用はある程度、推計できます。また、往復の渡航費、旅行保険、ビザや滞在許可取得の費用、TOEFL など語学力検定試験の受験料やそのための交通費も上記以外に必要になります。

Q. 留学のための奨学金制度はありますか。

A. 海外の大学等に留学する本学学生を経済的に支援するために設立された、本学独自の給付型の奨学金があります。金沢大学学生特別支援制度（アカンサス支援制度）派遣留学支援、金沢大学創基 150 年記念留学生支援奨学金（プログラム SAKIGAKE）海外学習奨励費、などです。

また、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）のホームページには、海外留学のための奨学金のページがありますので、それを参考にしてください。 <http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

それら以外にも、多くの企業や地方自治体が留学生を対象とした奨学金制度をもっていますので、是非調べてみてください。

Q. ある程度の語学力は必要ですか／どの程度の語学力が必要ですか。

A. 経済学類の学生で、これまで学んだ外国語が英語である場合、必要とされる語学力の種類とレベルの条件は以下の二通りあります。

1. 英語圏の大学で経済学・経営学の専門教育を受ける場合／英語圏以外の国で英語プログラムを受講する場合：
希望する大学が設けている語学試験のスコア（例：IELTS 6.0 以上、TOEFL-iBT80 以上、等）をクリアすることが入学の条件となります。スコアの条件は協定校によって異なりますので、詳しくは入学後にお問い合わせください。
2. 英語圏以外の国へ、その国で使用される言語を習得するために留学する場合：
協定校によって要求される語学試験スコアは異なりますが、本学で初習言語としてその言語を学んで単位を取得してから留学することを強くお勧めします。

Q. 留学してどんなことを学べますか。

A. まず、英語圏に留学した場合は、留学先の大学が提供する専門科目を英語で学べます。たとえば、欧米豪の経済やビジネスの科目は本学より種類が豊富ですし、その国からアジア、あるいは日本の経済や文化がどう見られているのかも学べます。また、大学によっては講義以外にチュートリアル（講義の理解を補助する授業）で発表したり、教授・学生と議論したりする機会もあり、英語でのコミュニケーション能力を養うことができます。また、日本語を学ぶ現地の学生との交流もできます。

非英語圏に留学した場合は、その国の言語科目の履修が中心になりますが、大学によっては英語で提供されている科目も履修できます。

語学力や授業以外で学べることとしては、留学した学生たちは「異文化理解・適応力」、「自信・チャレンジ精神」、「広い視野」といった人間的成長をあげています。

Q. 留学の効果・メリットは何ですか。

A. 前問の回答と重なりますが、経済学類の留学経験者から聞いた主な留学の効果・メリットは、「語学の習得・向上」、「自信や度胸がついた」、「多国籍の友人ができ、価値観が変わった」です。また、近年の動向からメリットとして強調しても良いと思われるのは、「就職活動に有利になった」ということです。留学で得た能力や人間的成長をアピールできた結果が表れての評価でしょう。

<参考になるウェブサイト>

金沢大学留学生センター 派遣留学の手引き <http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/jp/send/index.html>

独立行政法人日本学生支援機構 海外留学情報 <http://ryugaku.jasso.go.jp/>

5. その他

Q. どうすれば頭が良くなりますか。

A. 「頭が良くなる」というのが「大学入試のために偏差値を上げる」という意味であれば、高校あるいは塾、予備校の先生に尋ねてください。「賢明な人間になる」ということであれば、本を読むことをお勧めします。様々な分野の小説を読む習慣を身につければ国語力が上がるだけでなく、人間や社会を見る目が深く広くなり、洞察力が養われます。現代の、特に若者世代は会話においてまるでお笑い芸人のような瞬発力が求められていますが、そうした刹那的な言葉のやり取りでは人間としての深みは到底、身につけません。人間の抱える様々な苦悩や悲哀、人間と人間社会の限界や矛盾などに触れ、人間としての器を広げるためには小説を読むことが極めて有用です。

もう一つ、あらゆる物事には功罪があり、また様々な見方があることを知ろうとしてください。日々、ニュースで取り上げられる政府の様々な政策、オリンピックの開催都市となること、といった大きな事柄から塾に通うこと、夏休みの間にアルバイトをすること、といったあなた自身の日常的な選択まで、世の中のあらゆる物事には良い面と良くない面とがあります。また、憲法改正や規制緩和など、あらゆる問題には賛否両論があります。世論の大勢が一方の立場を支持していても、それが正しいと簡単に信じ込まずに、様々な立場の意見に耳を傾け、その問題についてあなた自身の頭で考えるよう心掛けてください。そのような思考回路を身につければ、周囲に流されない賢明な人間になれることでしょう。また、あらゆる側面について慎重に見極めようとする姿勢は、大学入学後の学びに間違いなく、大いに生きてきます。

Q. 今できることは何でしょうか。

A. あなたが「何のために」今できることを知りたいのかがわからないのですが、おそらく受験のために、という意味であろうと推測します。そうであれば、まずはこのFAQの「学生からの回答」を参照してください。ただ、学生からの回答はあくまでもその学生の個人的な経験を踏まえたものですので、先輩

からの一つのアドバイスとして受け止めると同時に、やはり高校あるいは塾の先生に尋ねるのが適切ではないかと思います。

Q. 新聞をとっていなくて国際ニュースなどが入ってこないことがあるんですが、良い方法はないでしょうか。

A. 当然ご存知のことと思いますが、ニュースはパソコン、スマホでも読めます。ニュースは自分から知ろうとしなければ入ってきません。世の中で何が起きているのか、何が問題となっているのか、なぜそのことが問題視されているのか、を日々、自分から積極的に知ろうとしてください。

Q. 理学系に行きたいのですが、音楽大学にも興味があり、経済学にも興味があります。したいことが多すぎて、逆に何をしたら良いのかわかりません。将来は芸能の方で活動したいのですが、どうすれば良いのでしょうか。

A. 最終的にはあなたしか決断できないことであり、我々が「どうすべき」と言うことはできませんので、ここでは一般論を述べておきましょう。

まず、胸に手を当てて考えるべきことは、芸能界で自分は何をしたいのか、また、その夢を叶えるために家族や周囲に迷惑をかけることなくどれだけのリスクを負い、犠牲を払う覚悟ができているか、です。あらゆる犠牲を払ってでも、たとえ結果的にものにならなくてもその道に進む覚悟が固まっているのであれば、芸能界での仕事に役立つことだけを考えて進路を決めれば良いのではないのでしょうか。その場合、大学進学はむしろ邪魔かもしれません。

一方、そこまでの覚悟はもてないのであれば、失敗した時に備えておくことが賢明ではないのでしょうか。その場合、大学で経済学を学ぶことは人生の選択肢を広げる上で極めて有用であると思います。

なお、経済学類卒業生には在学時からバンドを組み、ゼミ指導教員の紹介で上述の経済卒業生、FMいしかわの松岡さんの番組に出演した学生がいました。彼は芸能界での活躍を夢見て在学中にオーディションを受けて合格し、現在は大手芸能事務所付属の養成所で研鑽を積みながら活動をしています。

Q. 特にやりたいことが見つからないのですが、就職に有利だからという理由で経済学類を受験するのは良くないことでしょうか。

A. そんなことはありません。世間ではよく、若者に夢をもつことの重要性を説きますので、皆さんも学校の先生あるいはご両親から「将来の目標をもちなさい」、「やりたいことを見つけなさい」と言われているかもしれません。確かに確固たる目標を高校生のうちからもてれば、それは素晴らしいことです。しかし、若いうちに夢見たことが必ずしも正解とは限りません。十代の頃はまだ自分の適性や能力などをよく理解できていないからです。また、これまで様々な科目を一律に学ぶことを求められてきた高校生の皆さんが、現時点で「自分は絶対にこれをやりたい!」というものを見つけるのは実際には困難なことが多いと思います。

その場合、まずは経済学を学んでみる、というのは賢明な選択の一つであると言えます。何故なら、経済学を学ぶことによって日々の買い物、また自分あるいは親の給料、海外旅行の際の両替のレートなど、最も日常生活に密着した事柄を理解できるようになるという意味において、経済学は私達の生活、私達が

生きる社会そのものを理解するために極めて有用な学問であり、したがって経済学を学んでおけば将来の選択肢の幅が広がるからです。

なお、入学後、どうしても経済学・経営学に馴染めない、自分は経済学以外のこの学問の方に興味があることがわかった、という場合には転学類試験を受けて希望の学類に移ることも可能です。

Q. 英語の決まり文句、to や at などの区別がつけられません。どうしたらいいですか。

A. 経済学類として「こうすれば良い」というアドバイスはできませんので、ここでは以下、一教員の個人的なアドバイスをお伝えしておきましょう。

あなたには好きな洋楽のアーティストがいますか。好きなアーティスト、あるいは有名なスタンダードの英語の歌を数曲、繰り返し聴くことをお勧めします。並行して歌詞を自分で訳してみることも極めて有用です。そうしたことを日々、繰り返しているうちに、どのような場合に to を使い、どのような場合に for を使うのか、in と at はどう使い分けるのか、などが自然に身についていくと思います。問題集に取り組むよりもこの方法の方が遥かに「英語らしい英語」を感覚的に捉えることができるでしょう。あなたが映画好きなら、お気に入りの映画のうち、聞き取れる台詞のいくつかを繰り返し聞くことも同様の効果があると思います。この方法は万人にとって効果的とは限りませんが、教科書や問題集を通じた勉強では英語がどうも身につかない、英語への苦手意識を克服できない、という場合、英語を「勉強」と捉えるのをやめて、人間が話す一つの言葉として感覚的に体で覚えることはいろいろな意味で役に立つと思います(繰り返しますが、これはあくまでも一教員の個人的な一つのアドバイスに過ぎませんので、高校あるいは塾の先生、英語の得意な友人など、いろいろな人の意見を参考にしてください)。

なお、前置詞の使い分けはネイティブの間でも定まっていない場合があります。日本で助詞の使い分けが必ずしも一通りだけでないのと同じです。そのことは理解しておいてください。

Q. 留学に行って学べることは何ですか。

A. 「4. 留学について」も参照して頂きたいのですが、語学力に加えて、その国の政治経済状況、文化的背景を知ることができる、その上で新たな問題意識をもって世の中について考えることができるようになる、さらには多様な価値観や考え方を知ることができる、外国から日本を見直すことができる、多国籍の友人を作ることができる、物おじせずに積極的に意見を言うことができるようになる、など、留学することによって得られることは限りなくあります。ただし、留学に行きさえすればこれらが自動的に身につくわけでは勿論ありません。留学中に環境の違いなどを克服してどれだけ努力するかによって異なりますし、あなた自身が何を目的に留学するのかによっても異なるでしょう。

Q. 寮に入るにはどうすれば良いですか。

A. 学生寮については、の金沢大学学生支援サイトをご覧ください。

<http://ghp.adm.kanazawa-u.ac.jp/archives/571.html>

Q. アパートなどの情報を教えてください。

A. 下宿、アパートについては、の金沢大学学生支援サイトをご覧ください。

<http://ghp.adm.kanazawa-u.ac.jp/archives/571.html>

Q. 入学後に、学生にあったバイトなどは紹介してもらえますか。

A. アルバイトについては、次の金沢大学学生支援サイトをご覧ください。

<http://ghp.adm.kanazawa-u.ac.jp/archives/6.html>

Q. 部活やサークルは他学類の人と共通ですか。

A. はい。学類の垣根なく幅広い人間関係を築けるのが部活・サークルの大きな魅力です。

入試と卒業後の進路に関する質問のほとんどは、参加者の皆さんに質問を書いていた後のプログラムで答えましたので、ここでは割愛します。
経済学類 Web サイトの「よくある質問」もご覧ください。

<http://econ.w3.kanazawa-u.ac.jp/FAQ/index.html>

また、頂いた質問の中には高校の先生、あるいは大学生が答えるのが適切なものもありました。
「学生からの回答」も併せてご覧ください。

2014 年度のオープン・キャンパスで寄せられた質問に対する教員からの回答はこちらです。
併せてお読みください。

<http://econ.w3.kanazawa-u.ac.jp/newspdf/2014OpenProf.pdf>